

ICTニューズレター

溶連菌感染症とは？

溶連菌感染症とは、A群β溶血性連鎖球菌という細菌によって起こります。

感染する部位は、鼻の粘膜やのどの粘膜、扁桃腺などに感染するのが一般的です。

流行時期：春から初夏、及び冬期

潜伏期間：約2～5日

感染経路：飛沫感染...咳やくしゃみ等で飛び散った菌を吸い込むことで感染します。

接触感染...皮膚と皮膚が触れたり、タオルや食器等を介して感染します。

症 状：発熱・喉の痛み・腹痛・発疹・吐き気・莓舌(舌の表面に赤いブツブツができること)

風邪の症状と間違えることが多いので注意！

予防と対策

溶連菌感染症の感染経路は、溶連菌感染症にかかった人のせきやくしゃみ、つばなどのしぶきによって感染します(飛沫感染)。あるいは排出された細菌が手などを介し、口に入ることによって感染することもあります(経口感染)。

感染力は病気のなり始めである急性期に最も強く、子どもから子どもへだけではなく、子どもから抵抗力の低下した大人や妊婦にも感染することがあるので、注意が必要です。

予防接種はありません。他の感染症と同じく、手洗い・うがいを徹底しましょう。飛沫感染を予防するためには、マスクも有効です。もし溶連菌感染症にかかってしまった家族がいる場合は、同じコップや食器を使うことは避けましょう。

水分補給を十分に行うこと、有効な抗生物質をきちんと飲むことが大切です。のどに強い痛みがあることが多いため、のどごしがよく、消化のよい食べ物にしてあげてください。食べるのがつらいようでしたら、水分だけでもしっかり摂れるよう心がけてください。

熱が下がってきている時は長湯でなければ、お風呂(シャワー)に入っても大丈夫です。ただし、発疹が出ている場合は、温めるとかゆみが強くなります。温めすぎないようにすること、爪を短めに切って肌をかきすぎて傷をつけないようにします。

春から夏にかけての今が流行の時期になるので各自予防対策に努めるようにしましょう！

